



前田先生による
星空教室

■1月19日、鹿児島県天文協会の会長で、枕崎高校の教頭先生でもある前田利久さんが桜山小学校4年生を対象に「星の授業」を行いました。枕崎の夜空に光る星々の魅力を子供たちに伝えました。



妙見の森を再生し
桜の名所とする活動

■1月22日、妙見の森を再生し桜の名所とする活動が行われ、地域住民など約70名が参加しました。ソメイヨシノやヤマザクラ、イロハモミジがそれぞれ10本ずつ植樹されました。



商店街に鬼が出現

■節分の日の2月3日、立神地区の商店街に鬼が出現しました。この行事は立神通り会が主催した節分行事で、地域のスーパーやこども園、郵便局などで豆まきが行われました。



南薩とりっぴい Instagram
ラムフォトコンテスト展

■2月5日から27日までの期間、南濱館で開催されました。南薩の人・食・景色・暮らしをテーマにした写真や地域おこし協力隊員が枕崎の地で見て感じたことを収めた写真が展示されました。



100歳おめでとうございます
～宗前ナミさん、高山エキさん、南トシさん

1月下旬から2月にかけて、3名の方がめでたく100歳の誕生日を迎え、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

1 宗前ナミさん(高見町・1月28日)
川辺出身の宗前さんは、2人の子宝に恵まれ、今でも畑仕事をしているそうです。毎朝、眼鏡をかけずに新聞を隅々まで読んでいるという宗前さん、趣味は野菜を育てることで、長生きの秘訣は「前向きな性格で、のびのび自由に暮らすこと」と話します。

2 高山エキさん(中央町・2月4日)
川辺出身の高山さんは、結婚後、夫の弟の会社で墓石に関する仕事をしながら、4人の子宝に恵まれました。以前は家庭菜園で野菜作りを楽しんでいたという高山さん、長生きの秘訣は「くよくよせず、好き嫌いをなく食べる」と話します。

3 南トシさん(栄中町・2月8日)
枕崎出身の南さんは、1人の子宝に恵まれ、若い頃は農業をしていました。趣味は読書や日記を書くことだという南さん、長生きの秘訣は「お菓子などの甘いものを食べず、3食しっかり食べる」と話します。
皆さん、これからも元気で長生きしてください。



「枕(MAKURA) JAZZ」が特選を受賞
～令和3年度鹿児島県広報コンクール

県内の市町村が1年間に発行、発表した各種広報作品のうち、優秀な作品を表彰する令和3年度鹿児島県広報コンクールにおいて、本市の特産品PR動画「枕(MAKURA) JAZZ」が映像部門で特選を受賞しました。審査委員の方々からは、「『音』を中心に据えながら、枕崎の良いところが映像でもしっかりと示されている」「『丁寧な暮らしには、心地よい音がある』というコンセプトを裏切らない丁寧な作り」「電照菊の風景には心をつかまれた」などの評価をいただきました。

「枕(MAKURA) JAZZ」は現在、鹿児島県の推薦を受けて、日本広報協会が主催する令和4年全国広報コンクールの映像部門に出品されています。



川辺チーム健闘の5位
～第69回県下一周市郡対抗駅伝競走大会

第69回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が2月19日から5日間の日程で開催され、川辺チームは総合5位と健闘しました。

初日の19日は、午後1時半過ぎに第8中継所の枕崎市役所を選手たちが次々と通過。川辺チームは2位に僅差で迫る3位で通過していきました。今年も新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一般客の応援は自粛しての開催となりましたが、中継所では各チームの選手から熱い声援が送られました。

旬のお便り 地元生産者応援企画
枕崎で水揚げされる旬の海産物を紹介します!



真鯛
晩 秋から春にかけて旬を迎える真鯛。日本では「魚の王様」と称され、「めでたい」と「たい」の語呂合わせから、縁起物として食されてきました。広い範囲に生息し、1年中獲ることができるため、私たちにとっても馴染みの深い魚です。特にこれからの桜の時期に獲れる真鯛は、その鮮やかなピンク色から「桜鯛」と呼ばれ、入学式や昇進などのお祝いの席に欠かせない食材として重宝されています。

真鯛の身は上品な味ですが、旨味が凝縮されています。また、真鯛は捨てる場所がない魚と言われ、頭はカブト焼きやあら煮、内臓や中骨は出汁に使われます。調理方法もさまざまで、刺身はもちろん、塩焼きや煮付け、蒸し料理などでも美味しく食べることができます。

おすすめ料理
鯛めし

真鯛の身だけではなく、中骨などから取った出汁を使うことで旨味が増します。葱や三つ葉、生姜などの薬味と一緒に食べるのもおすすめです。

